【第1回環境審議会の詳細】

時間 13:30～15:45

場所 町民センター研修室2

出席 本間泰則委員、新谷志織委員、柴田真年委員、阿部武吉委員、チャーチル真知子委員、牧野雅之委員、黒滝 博委員、猪狩和大委員、葛西奈津子委員、
林副町長、山本課長、金井参事、桜井係長、大野主任、中村係長（町民生活課生活環境係長）

欠席 中川 明委員

主な内容

平成27年度の環境に関する主な取組について

環境評価の会「ごみの分別と資源化100%を目指して」について

平成28年度の環境に関する主な取組予定について

1 副町長あいさつ

- ・昨年度は2回、今年度は4回開催予定。自治創生の取組で3月に総合戦略を策定し、「町民が環境を生かす町」をテーマに掲げた。環境審議会でも貴重な意見をいただきたい。

企画環境課金井参事、町民生活課生活環境係中村係長から自己紹介。

2 報告事項

- ・第2次環境基本計画に基づく平成27年度環境に関する主な取組（資料1）
- ・平成27年度の環境に関する主な取組（取組評価シート）（資料2）
- ・GPP事業報告と進捗状況（資料3）
- ・住民からの「環境評価レポート」～ごみ分別と資源化100%を目指して（資料9）

別紙資料1～3、GPP事業報告書とその結果を受けて申請中の北海道の補助事業「一村一エネ」温泉排湯利用について、事務局より説明を行った。

環境基本計画に定める外部評価機関として「環境評価の会」から提出された「ごみ分別と資源化100%を目指して」の概要版及び町への提案について、傍聴として参加していた「環境評価の会」の井上剛代表より概要説明を行った。

【質疑・意見等】

- ・先日役場裏の資源ごみ保管庫に車のいすが置いてあった。毎週火曜日に塚越産業が回収していくが、回収していかないいわゆるためごみが残っている。役場だけでは対応できないので、住民の協力が不可欠。
- ・提案にあったRDF化込みと抜きのリサイクル率を分けることの意味はなにか。
→RDFを入れると92%のリサイクル率になるが、入れないと約50%でそんなに高くない。ビン缶などはリサイクルすればお金がもらえるが、RDF分はニセコ町がお金を払わないといけない。
- ・リサイクルの4R（リフューズ、リデュース、リユース、リサイクル）の考え方には優先順位がある。RDFは熱利用（サーマルリサイクル）なので、リサイクルの最後の手段。そのように説明してはどうか。
- ・わかりやすいパンフレットをつくったり、自分たちがリサイクルしたものがどう活用されている

のかわかると分別のモチベーションが高まる。環境教育でこども向けのゲームをすることがあるが、ペットボトルからできた製品を見せるようにしている。

- ・ RDFには純度の問題がある。熱量が低く、釧路まで運んでいるという話も聞いた。先進地である富良野市のRDFは分別がしっかりしており、純度が高い。
 - ・ 今回の提案については1つ1つ優先順位を決めながらやっていきたい。チラシも数年前に作ったが、新しい製品が出てくるので2～3年ごとに更新したほうがいいと思う。
 - ・ 役場だけで解決できないのでワーキンググループ（WG）をつくるのはいい。分別現場、排出現場の人たちが一堂に会して話し合えないといけない。塚越産業の見学会は分別処理が始まった当初はよく行った。ニセコ運輸への見学会も含めて、現場を見るのはいいと思う。ただ広報に掲載したり、様々な啓発活動をして見ない人は見ない。地道に広げていくしかない。
 - ・ ごみ問題WGの具体的な進め方は、役場に主導してほしい。
 - ・ 今までチラシや広報は見ていたが、今日の話聞いて、廃プラ袋に1つでも汚れたものがあるとすべて燃えるごみになってしまうと聞いて気をつけようと思った。もっとわかりやすいカラーのものなど訴えるものを作ったらどうか。
 - ・ 今回調査するなかで、ホテルの繁忙期は分別する時間もない、スタッフもいないということすべて燃えるごみにして出しているという話を聞いた。これがリサイクル率を下げている要因にもなっているので、ぜひWGにホテルに入ってもらいたい。
- ホテル現場ではスタッフに分別教育はしているが、インバウンドの外国人もたくさんきており、洗って出すのは不可能。自分の家でないので、一緒に出すのだと思う。
- ・ 町のごみ処理計画では平成30年度までに一人当たり1日何gの量にするなどの目標があるが、町民がいくらがんばっても、観光客が増えれば難しい。観光客の出したごみを町民が負担しているので、処理費は環境税という形でもらうのがいいのでは。
 - ・ ごみとCO2は共通項が多い。早急な解決策を示してほしい。
 - ・ ゴミ分別や節電の取組を子供が家庭で率先してやると親もはじめる。教育からはじめるのも1つの方法。

3 審議事項

- (1) 平成28年度の環境に関する主な取組予定（資料4）
- (2) 地方創生加速化交付金事業（地域経済循環モデルの自治体連携事業）について（資料5）
- (3) 今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」（資料6）
- (4) 今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」（資料7）
- (5) 地熱資源開発に向けた地表調査について（資料8）
- (6) 部会について

別紙資料4～資料8について、事務局より説明を行った。

資料6について、傍聴として参加していたコミュニティ研究所の梅田氏より説明を行った。部会について本間会長から説明を行った。

- ・ 部会については、3月のまちづくり町民講座「電力自由化って」を契機に4/27に王子伊藤忠エネクスの田中氏、経済産業局の方も交えて、どんな方向で進めるか知見を伺った。市民電力をどういうステップで実現していくか支援する補助金もご紹介いただいた。当面、綺羅乃湯のボイラーを化石燃料の高騰に左右されないようにできるだけ早く転換したいということがあり、5/16に寿都町のゆべつの湯へ見学に行った。実際に見てみたら「なかなかいい」という感触で、RD

Fと木質バイオマスの混燃ボイラーに舵を切りつつある。

- ・寿都町のシステムは実験的な面もあるが、1年間稼働実績があるので、参考にできる。現場を見て実現可能性があると感じた。ただ全部RDFでは稼働できないので木質バイオマスを入れる必要があることと綺羅乃湯で入れるのであれば煤塵フィルターが必要。
 - ・バイオマスは何を使っているのか。
- 解体材を使っている。
- ・長期的に見て原料の安定的な調達が可能かどうか。解体材を将来も集められるか、見極める必要がある。北海道では現在3箇所木質バイオマス発電所が立ち上がる予定で、将来的に原料の不足が懸念されている。解体材も量の確保の問題や価格も上がる可能性がある。
 - ・既存の重油ボイラーも残さなければいけない。
 - ・3年で回収というのは重油はいくらで計算しているのか。
- 40円/Lくらいで計算していた。かなり安い価格で、そんなに外れた金額ではない。
- ・地方創生加速化交付金の時間軸についてはどう考えたらいいか。
- 交付金は今年度1年間で、東京での会議、北栄町への視察を予定。交付金がでないH29年度以降も続ける予定。
- クラブヴォーバンはニセコ町でも講演したドイツの環境ジャーナリストの村上敦さんが主宰しており、省エネ建築などの専門家が多数所属している。省エネ建築をニセコ町でも目指していきたいと考えており、昨年整備した学童保育は断熱を徹底した。ニセコ町のエネルギーは年間電気代だけで8億円。熱も含めたら20億円程度が外に流れているという試算結果もある。- ・7/4-5とクラブヴォーバンの専門家集団がニセコ町に来る予定。7/4の夕方には一般の方が話を聞ける機会を設ける予定。
- ・梅田さんに質問。環境白書の物語がイメージできない。ドキュメンタリーふうなのか。

→「水環境」を軸に考えているが詳細はつめていない。ドキュメンタリーだと後半の白書とつなげやすいが、制約も出てくる。

→環境をテーマに広くPRをしたい、メッセージ性を導入部分に入れることで環境の取組にアクセスしやすくしたいというのが趣旨。

 - ・成果をどうフィードバックするか、ということだと思う。広報を工夫できたらいい。
 - ・観光協会と準備中のEdu Vavationでも例えばイトウの産卵や再エネへの取組など将来的にはDVDを作成できれば、理解してもらいやすいと思う。
 - ・先日中央倉庫群の活用について話し合う機会があったが、中央倉庫のコミュニティスペースにも環境に関する図書やパネルなどPRしてはどうかという意見が出た。環境白書の動きもこの作業と連動できるといい。ごみ問題やCO2についても外からくる方にどう訴えるかも重要。
 - ・CO2排出量は按分による推計が一般的。環境モデル都市フォローアップ資料作成業務は、今回は按分方式と併せて積み上げ方式でも算出しようというものだが、環境財団としても2方式でやるは初めての試みなのでどんな結果となるか予測できない面もあるが頑張りたい。
 - ・第一種、第二種エネルギー管理指定工場等に指定されている大規模観光施設は排出量を出さないといけないので把握できるが、ペンション等はわからないので調査が必要。
 - ・大学で科学技術コミュニケーション教育研究部門という場におり、今の議論はまさに研究テーマ。環境問題をどのように伝えるのか。物語や映像などいろいろな方法がある。札幌で行ったサイエンスカフェでは映像を活用した。7/18は学生の執筆班や映像班、都市可視化班が参加する予定。学生といってもほとんど大学院生で社会人も多い。7/18のサイエンスカフェ in ニセコのあと秋にもニセコ町を再訪問し、研究調査を行う予定。こういった学生や大学をうまく活用してほしい。

昨年度の有島灌漑溝の学生実習については「BYWAY 後志」にも記事として掲載した。環境白書の物語の執筆はぜひ手伝いたい。また、学生が安く泊まれる場所があれば紹介してほしい。

- ・昨年度、環境財団と町の共同で行った家庭のCO₂排出実態の調査結果で冷蔵庫の省エネの取組について聞いたが、多くの方が気をつけて行っているのが「冷蔵庫の開閉頻度」であった。実際にCO₂削減に効果が高いのが「季節に応じた温度調整」であり、必ずしも効果的な省エネ行動が普及していないことがわかった。こうしたことをもっと学ぶ場を作ってはどうか。
- ・環境税はぜひ取り組んでほしい。

4 その他

- ・北海道環境財団から昨年度行った「自然環境保全を仕事にしよう」の冊子紹介。
- ・町民センターに掲示予定の地中熱HPと太陽光発電の効果についてのパネル原稿の紹介。
- ・次回は8月に開催予定。改めて日程調整する。